


生活協同組合コープおおいた
役員室広報課

〒870-0728 大分県大分市青崎1丁目9番地35号
TEL.097-524-0119 FAX.097-524-0128
<http://www.oita.coop>

 コープおおいた

コープおおいたレポート

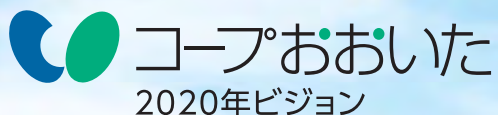
CO-OP OITA REPORT 2018

2018



生協 CO-OP=Co-operativeとは？

生協はよりよい暮らしを願う消費者一人ひとりが
組合員となって参加し、出資、利用、運営する協同の組織です。



～暮らしのどこかに生協を～ 暮らしに役立ち、寄りそい、支えあうコープおおいた

コープおおいたでは、宅配や店舗での商品供給事業をはじめ、共済、福祉事業、子育て支援などの事業で組合員の日々の暮らしをサポートしています。また、商品、食の安心と安全、環境、子育て、福祉、平和などの組合員活動にも取り組んでいます。これら組合員の暮らしや地域社会でうまれた課題の解決に向け、事業と活動を通して、さまざまな「社会的な取り組み」を推進。

人と人の結びつきを大切に、地域の暮らしを支える存在、この街に住んで良かったと思っただけのような存在でありたいと願っています。

組織概要(2018年3月31日現在)

創 立 / 1952年(昭和27年)12月	本部所在地 / 大分県大分市青崎1丁目9番地35号
代 表 者 / 代表理事 理事長 青木博範	事業エリア / 大分県全域
組合員数 / 16万2,400名(加入世帯率33.1%)	グループ会社 / (株)コープサービスおおいた
出 資 金 / 55.5億円	(株)コープキッズおおいた
総事業高 / 185.6億円	(有)ヒューマック大分
供 給 高 / 宅配97.4億円 店舗81.5億円	(株)コープハウジング大分
職 員 数 / 208人(正規職員) 600名(定時職員)	(株)夢ファームおおいた

コープおおいたのCSR 編集方針について

コープおおいたは、事業活動を通じて、みなさまの暮らしと社会をよりよくするために、CSR活動(企業の社会的責任)に取り組んでいます。

本誌では、コープおおいたが取り組む事業活動や役割をご報告します。みなさまからのご意見をいただき、地域に根ざしたさらなる活動向上、新しい価値を提供し、広く社会に貢献することを目的に発行いたします。

表紙は大分県在住の絵本作家「ザ・キャビンカンパニー」によるものです。

報告対象期間：
2017年4月～2018年3月
(一部対象期間外の情報も掲載しています)



Contents

CO-OPとは	P02
事業案内	P04
トップメッセージ	P05

特集

特集.1 役に立つ 「産直たまごを食卓へ」	P06
特集.2 寄りそう 「買い物弱者をゼロにしたい」	P08
特集.3 支えあう 「災害支援 九州北部豪雨支援」 「災害支援 ふくしま復興支援」	P10 P12

事業紹介

店舗事業	P14
宅配事業	P15
生活サービス事業	
福祉	P16
子育て支援	P17
暮らしサポート	P18
共済	P18
組合員活動	P19
環境への取り組み	P22
コープおおいたと地域の歩み	P26

コープおおいた事業案内

日々の暮らしに役立ち、より豊かにするため、
コープおおいたは各事業が連携し、新たな価値を創り提供しています。

店舗
「よりよいものを、より安く」をキーワードとして、毎日の食卓に欠かせない食品を中心に、コープ商品や産直商品など、新鮮でお買い得な商品を品揃えしています。資源回収やマイバッグ運動にも取り組み、環境に配慮したお店です。

宅配
山間部や離島なども含め、大分県内全域に、信頼される商品を毎週お届けしています。個人配達では、高齢者の見守り活動を行うほか、赤ちゃん個配や福祉個配といったお得なご利用方法もご用意しています。

商品
「信頼される商品を食卓へ!!」
私たち消費者が安心して食べられる商品が並び、笑顔あふれるさまざまな食卓の風景を思い描きながら、「モノではなく命の源である食べ物」という生協の原点を大切にしています。

生活サービス
生活サービス事業では、地域の暮らしを支援するさまざまな事業を展開しています。高齢者・児童福祉施設の運営や、お買い物弱者支援の移動店舗販売、店舗への無料送迎車両などをご利用いただいています。

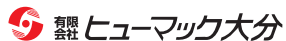
**暮らし
組合員活動**

福祉 | 子育て支援 | お買い物サポートカー
移動店舗販売 | 生活支援 | CO・OP共済

グループ会社



CO-OP自由設計の家(新築)、
住宅総合リフォームなど



「豊かな暮らしサービス」、各種保険取り扱い、
チケット、プレイガイドなど



コープおおいたの宅配業務受託、
配食サービス、宅配水事業など



児童福祉施設の運営、
行政や各団体と連携した子育て支援



企業の農業参入、
地産地消の取り組み

トップメッセージ



「組合員の暮らしに役立ち、 寄りそい、支えあう生協」の 実現をめざして。

日頃より、生協の商品やサービスをご利用いただいている組合員のみなさまをはじめ、生産者やお取引先のみなさま、そして生協活動への深いご理解と温かいご支援をいただいている関係者のみなさまに、心より厚く感謝申し上げます。

私たちの生協は、組合員の“願い”や“想い”を、持続可能な事業やサービスを通して実現していく組織として、昨年創立65周年を迎えることができました。総事業高は180億円を超え、組合員数は16.2万人(世帯加入率34%)の規模にまで成長してきました。

私たちの生協は、昨年3月に大分県と「地域包括連携協定」を締結しました。九州では初めての協定です。その中では、食の「安全」「安心」はもとより、地場商品の開発・普及、買い物弱者支援から消費者教育の推進など、さまざまな分野で連携することにしています。この連携に基づき、私たちは「保育園事業」「介護保険事業」「就労支援事業所」など、地域が抱えるさまざまな課題に取り組んできました。これからも地域に役立つ事業として展開していきます。

私たちは現在、2020年ビジョンで掲げた「組合員の暮らしに役立ち、寄りそい、支えあう生協」の実現をめざして、事業や活動を展開しています。

私たちはこれからも、組合員の期待だけでなく、地域のみなさまの期待にも応えていくことを大切に、地域社会の一員としてその役割と責任を果たしていきます。

生活協同組合コープおおいた
代表理事 理事長 青木博範



1. JAうすきたまごファーム 白杵農場 兒玉 政則さん。/2.人の目による最終チェックも、高品質を裏げます。/3.大切に育てた卵をお届けします。/4.集荷から販売に至るまで、温度管理を徹底しています。/5.白杵農場で1日に必要な飼料は約20トン。

このマークが目印!



コープおおいたの産直商品

コープおおいたの「産直」は「産地直結」。生産者・コープ・組合員がつながり、ともに育てあう取り組みです。安全性が確保され、おいしさと環境配慮を兼ね備えた商品をお届けしています。

特集.1 役に立つ

産直たまごを食卓へ

コープおおいたの産直たまごは、「生産者の顔が見えること」「非遺伝子組み換え (non-GMO) 飼料」をはじめ、「飼育方法」「採卵日の記載」「採卵からお届けまでの鮮度管理」などについての取り決めのもと、大切に生産されています。

しっかり食べて しっかり産んでもらう

産直生産者のお一人、JAうすきたまごファーム(株)さんとの約束ごとは、餌のとうもろこしは、遺伝子組み換えと収穫後の農薬散布をしていないものを使うということ。コープおおいたの産直たまごを産む鶏は、決まった区画で約束した餌だけを食べてたまごを産んでいます。

農場の鶏舎は窓がなく、鶏舎内の温度や湿度、明かりを調整できます。施設内に異常が発生した際、アラームが発動して夜中でも職員へ連絡が届きます。24時間、365日、鶏から気持ちが良い離れることはありません。

皆がハッピーになれる それが産直の取り組み

「生協の組合員さんは、生協の商品は安全で安心だということで利用してくださっています。その一員であることをうれしく思っています」

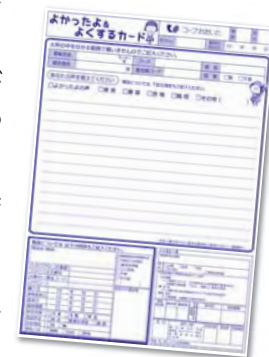
生協に卵を届けている他の生産者さんと話合っ、飼料を統一した例もあります。統一することで価格が抑えられ、手間も減り、飼料会社も含めお互いのメリットとなりました。生産者と生協組合員だけでなく、生産者と生産者もつながって皆がハッピーになれる。それが産直の取り組みです。

安心・安全を感じる売り場を

コープおおいたの産直たまごは、集卵・包装・輸送・販売のあらゆる過程において温度管理を徹底しています。お店では全ての卵を冷蔵ケースで販売し、バックヤードでも同様に冷蔵室で保管しています。宅配においても冷蔵温度帯で配達しています。採卵からお届けまでの鮮度管理は、生産者と生協と組合員が結ぶ大切な約束です。

組合員の声を「聴く」

コープおおいたの商品やサービスをご利用の方に「よかったよ&よくするカード」などを通してさまざまなご意見・ご要望をいただいています。全てのお申し出は担当者や商品開発部門へ速やかに伝達し、返答をお送りしています。また、職員と組合員が参加する「組合員の声をいかす委員会」を毎月開催し、関係部門と常に共有することで、商品やサービスの品質向上を図っています。



TOPICS

エシカル消費とコープ

エシカルーEthicalーとは、直訳すると「倫理的」という意味です。生協では、地域や環境、社会や人々に配慮してモノやサービスを購入することを「エシカルなお買い物」と表現し、積極的に応援しています。

生協は長い歴史の中で、「くらしや社会をよりよくするため」さまざまな活動に取り組んでおり、エシカルとの関係性が深いといえます。

未来へつづく世界の実現のために、**地域・環境・社会・人々**の視点で進めていきます。

Theme
1
Community
豊かな**地域**を作り出す

Theme
2
Environment
地球の**環境**を守り続ける

Theme
3
Society
公正な**社会**の仕組みを作り出す

Theme
4
People
人々の「生きる」を支える





特集.2
寄りそう

買い物弱者をゼロにしたい

お買い物サポートカー・移動店舗販売

お友だちと、
毎週お買い物へ行くよこび

日常のお買い物にお困りの方や、高齢者を中心としたお買い物弱者支援策として2017年4月に、店舗への無料送迎サービス「お買い物サポートカー」を導入しました。「お買い物サポートカー」とは、ご自宅からお店までが車で15分圏内の組合員さんを、専用送迎車両でコープおおいたのお店まで往復送迎し、約40分間お買い物を楽しんでいただくサービスです。

くらしの楽しみをコープとともに

「毎週1度のちょっとした小旅行の気持ち」と、嬉しいお声もいただいています。送迎中やお買い

物中に交わすお友だちとの会話だけでなく、店舗の職員との交流もとても楽しみにいただいています。さまざまなメニューを提供できるよう、部門担当者は毎週、旬の食材を使った料理提案について情報共有を行っています。

停留所に、地域コミュニティが
生まれる

スーパーや商店の無い地域で、移動店舗販売を行っています。毎週決まった時間にお買い物ができる移動店舗販売車両は、商品を実際に手に取り・選ぶ楽しさを味わえます。また、地域コミュニティの再構築の場としても注目されており、移動店舗販売事業は大分県が推進

する「孤立ゼロ社会推進プロジェクト」の協力事業者に加盟しています。

コースごとに変わる品揃え

移動店舗販売車両は、生鮮食品から日用雑貨まで最大700品目を積載します。商品は、出発前に職員（ドライバー）が手作業で積み込み、コースや季節ごとに異なるさまざまなニーズに応じて品揃えしています。利用者と職員のコミュニケーションの中で育まれる信頼関係と、「くらしをよりよいものになりたい」という双方の気持ちを大切にしています。

移動店舗の停留所総数 227カ所、年間利用者数 10,900名。

1.コープうすきを出発するお買い物サポートカー。/2.約40分間のお買い物を楽しんでもらいます。/3.地域包括連携協定から実現した、他企業や他団体と連携して運行する移動店舗販売車両。(杵築市) /4.店内で職員と会話をすることも楽しみのひとつ。/5.県内各地で販売を行っています。

地域のくらしを支えるために
「地域包括連携協定」

2017年、コープおおいたは九州で初めて県と「地域包括連携協定」を締結しました。よりよいくらしの創造はもちろん、地域の安心・安全に貢献することもコープおおいたの使命のひとつと考えています。県下全域を走る宅配トラックを筆頭に、移動店舗販売やお買い物サポートカーにおいても、地域の見守り活動を行っています。



災害支援 九州北部豪雨支援

コープおおいたは災害発生後から、大分県との災害時応急支援物資協定に基づいた災害物資の支援活動や、ボランティア団体と連携した交流会への参画などを行っています。被災されたみなさまや地域のくらしが一日でも早く復興できるよう、さまざまな支援に取り組んでいます。



2017年7月13日

日田市内で炊き出し

日田市の避難所2カ所で、だんご汁と鶏めし200食の炊き出しを行いました。「出来たての汁物はほっとします、うれしい。」とお声をいただき、私たちも心が温かくなりました。



2017年7月21日

支援物資搬入

スポーツドリンクや塩飴などを、日田市社会福祉協議会の拠点地に搬入しました。



2017年9月7日

支援活動(JAふくしま未来とともに)
福島県産の桃「ゆうぞら」250kg支援

福島県産の桃“ゆうぞら”250kgを、日田市の被災された方々へお届けしました。住民の皆さんに「いい香りね～おいしそう!」と喜んでいただきました。嬉しいかぎりです。



2017年11月8日

復興支援(OBS大分放送タイアップ)
コープ大分駅店にて
「被災地復興支援フェア」開催



2018年5月28日

物資の支援

復興作業に用いる機器や、交流拠点で使用する物品などを寄贈

7月

8月

9月

10月

11月

12月



2017年7月20日

災害拠点へ簡易トイレ搬入

エフコープと協力して簡易トイレ車両2台を日田市災害ボランティアセンター大鶴サテライトへ搬入しました。



2017年8月26日

食料など支援／大鶴・朝倉の
子どもたちと鯛生金山へバス旅行!

日田市災害支援センター大鶴サテライト(当時)の企画に参画し、食料品や粗品を提供しました。



2017年10月28日

人と物資の支援／大鶴振興協議会主催
「みんなで大鶴交流会!」協賛



2017年12月17日

人と物資の支援
ひちくボランティアセンター主催
「みんなで小野交流会」協賛

住民およびボランティアの交流と語らいの場が小野地区にて開かれました。コープおおいたと日田市民生協は共同で協賛して、バーベキューとだんご汁をそれぞれ約150名分ご準備しました。





特集.3 災害支援 ふくしま復興支援

被災地の声に寄りそう

2011年に発生した東日本大震災以降、コープおおいたでは年間を通してさまざまな支援活動を継続して行っています。原発事故の発生から7年の経過を福島とともに歩んでいる中で、帰還困難区域の解除が進められる地域は、インフラやコミュニティの問題により、帰還率が極めて低いこと。仮設住宅の解体時期が国により決定され、多くの避難住民が移住か帰還の選択を迫られていること。被災地の各所に膨大な量の放射

性廃棄物が集積され、放置されていることなど、さまざまな問題を見つめ続けています。

負の遺産を未来の世代へ引き継ぐのではなく、安全で住みよい環境をいかに創出できるかが、私たちの世代に課せられた大きな課題であると痛感しています。復興の現状を知り、多くの人に語り継ぎ、被災地のくらしに寄りそった支援活動を行うため、今後も大分と福島の相互交流を続けていきます。

復興支援とふたつの風

記憶の風化を防ぐために

震災が奪った「いのち」、もたらした影響は甚大です。その恐ろしい教訓を次世代につなげることも、私たちの責任であると考えています。コープおおいたでは記憶の風化を防ぐため、実際に福島県へ訪問するツアーや、福島の子どもたちを大分県に招く「ふくしまっ子応援プロジェクト」、福島県の今を語る報告会・座談会などを毎年開催しています。

子どもたちと福島県の被災地を巡る「親子ふくしま訪問ツアー」では、津波が襲った街並みを線量計を手に視察するほか、桃の生産者や仮設住宅の住民を訪問して交流を深めています。「ふくしまを、忘れないでほしい。」この切なる願いを大分県に持ち帰り、報告会やパネル展示を行い、福島県の今を多くの方に伝える活動を継続して行っています。

風評被害を払拭するために

福島原発事故に伴い、福島県産品への根強い風評被害が現在も続いています。震災後しばらくの間、自分たちが作った商品を、自分たちの手で廃棄しなくてはならなかった生産者の皆さんの思いを、コープおおいたは長年受け止めてきました。風評被害の払拭と、福島県産品のおいしさと安全性を感じていただくため、毎年開催している「ふくしま物産展」では、生産者の方々を福島県から招き、農産品に施す地道な放射線モニタリング検査や震災から現在の出荷に至るまでのお話などを、実際にお話ししていただいています。

また、店舗では毎月11日を「ふくしまの日」と定め、売り上げの1%を寄付金として積み立てるほか、宅配事業では「がんばっぺ福島」カタログを企画し、支援しています。募金も含めて、2017年5月まで、約2,030万円を福島復興義援金として寄付しています。



毎年開催している「ふくしま物産展」では、福島県から生産者の皆さんをお招きしています。



組合員さんの呼びかけで実現した「はんでんを送ろうプロジェクト」



7年間継続している「福島復興義援金」の贈呈。2017年5月まで、約2,030万円が寄付されました。

発災直後から
更新を行っています

ふくしま復興支援ブログ ~大分と福島、交流の記録~
<http://coop-fukushima-oita.hatenablog.com/>



事業紹介

店舗事業

来る時には楽しみを、帰る時は喜びを

コープおおいたのお店は県内に8店舗。地域のニーズを取り入れた品揃えのほか、産直の取り組みや地産地消にも力を入れ、毎日の暮らしに役立つ商品を提供しています。



生産者交流

売り場や集会スペースで組合員と生産者の交流を行っています。



組合員交流

地域の協力のもと、全店舗で「店舗まつり」を毎年開催しています。



子どもたちの交流

地域の子どもたちを対象に、料理教室やハンドメイド教室を開いています。



各店舗の交流

定期的な事例共有発表会を開催し、職員間の情報交換を実施しています。

宅配事業

信頼される商品を、心を込めてお届け

ご注文いただいた商品を、毎週ご自宅までお届けする「個人宅配」のほか、職場やご近所のグループにお届けする「共同購入」などがあります。大分県下約5万5千人の組合員が利用しています。



センターまつり

食の安全や環境保全など、さまざまな生協の活動がカタログ商品に反映されています。



法人へお届け

大分県に許可された福祉・教育施設などへ法人宅配を行っています。



おもてなしの心

信頼される接遇のため、全ての配達担当者による、スキルアップ研修を行っています。

pick up
この活動に
注目!



コープおおいた商品政策室

塩月 聖奈

入協2年目。管理栄養士の資格を保有し、店舗点検や商品改善の対応を担当しています。

食品の品質保証のために、最新の検査機器で検査しています

生産者や取引先、コープおおいたで確認した商品基準や商品仕様書などの約束ごとが守られているかを厳しくチェックしています。安心して利用できる商品を組合員にお届けするために、微生物検査や遺伝子検査などの理化学検査を実施し、さまざまな角度から品質管理を行っています。





生活サービス事業

福祉

支えあい、高齢者が生き生きとくらすために

大分県内に複数箇所ある福祉施設を拠点に、居宅介護支援、訪問介護、通所介護（デイサービス）など、安心・安全の福祉サービスを行っています。



おとなの学校

国語や理科、音楽など、スタッフが工夫を凝らした“授業”を行っています。



地域交流

地域の子どもたちと触れ合う、世代間交流の場を定期的に設けています。



地域活動

防災訓練やスポーツ応援など、地域の催しに積極的に参加しています。



にじいろ農園

畑で協力して作物を作り、施設内の献立に取り入れています。



生活サービス事業

子育て支援

ともに育ち、地域で育むこころ

子育てしやすい地域社会をめざし、児童福祉施設を運営しています。安心・安全を中心とした食育と、自信を育む教育を実践し、学習教室や農業体験、産地見学などを行っています。



子育て満足度日本一をめざして

大分市民間放課後児童クラブ運営費補助事業として、大分市内2カ所で児童福祉施設を運営しています。



食育の取り組み

農業体験やお店見学など、食の安心安全を中心とした保育を行っています。



行政との懸け橋

子育て中のお母さんの声を行政に届けるため、大分県との意見交換会を開催しています。

Pick up
この活動に
注目!



(株)コープキッズおおいた
取締役 佐々木 猛士
コープおおいたの職員として
長年広報を担当。さまざまな
施設で研修を受けるなどして、
ゼロから保育を学んだ。

“親育て”の機会

子育て中のお父さんお母さんを対象に、子どもの自発的なやる気を引き出す方法や、怒りの感情をコントロールする「アンガーマネジメント」などをテーマにした「子育て講演会」を定期的で開催しています。さまざまな角度から、子育てのヒントを共有する取り組みとして、県内外から講師をお招きしています。

※組合員活動の「子育て分野」で企画しました。



生活サービス事業

くらしサポート



くらしの困りごとを助ける事業

買い物弱者支援を目的とした移動店舗販売と、店舗への無料送迎「お買い物サポートカー」を運行しています。また、生活支援事業では、家事代行サービスを行っています。



災害時のサポート

台風18号によってコープつくみが被害を受けた際、移動店舗車両で臨時販売を行いました。



毎日のくらしをサポート

庭木の剪定や食事作りなどの家事代行サービスを行っています。

生活サービス事業

助け合いの心から生まれた保障

共済

「自分の掛金が誰かの役に立つ」という組合員どうしの助け合いの心からCO・OP共済が誕生しました。組合員の意見・要望から生まれたさまざまな保障は、時代のニーズとともに、現在も進化を続けています。



ご相談を聴く窓口

組合員さんのご相談にお応えるため、コープおおいたの全店舗に共済カウンターを設置しています。



新しい情報を、わかりやすく

各店舗のCO・OP共済のおすすめコーナーは、共済担当者が手作りしています。



組合員活動

学びたいこと、 やってみたいことを実現する。

自分たちのくらしを支える活動や事業を考え・創り・運営する、組合員が主人公の取り組みです。『地域活動の場』として、自主的に・自発的にさまざまなイベントや学習を行っています。

子育て

子育て支援イベント

親子のコミュニケーションの場として、さまざまな子育てイベントを開催しています。



食育の取り組み

畑の準備から収穫までを行う農業体験を通して、食育を推進しています。



絵本の読み聞かせ

店舗や商業施設内で、絵本の読み聞かせを定期的に行っています。



異文化交流

立命館アジア太平洋大学の学生と、子どもたちとの交流会を開催しています。



組合員一人ひとりが主人公。自主的、自発的な活動を応援しています。

食(商品)



生産者交流会

商品の生産者と組合員の交流会を、県内各地で毎年開催しています。



産地見学

農場や工場などの産地を見学し、生産者とつながる機会を設けています。

環境



田植え体験

九重の里山で自然と触れ合う田植え体験を27年続けています。



自然観察会

生き物について学ぶ水生生物観察会を各地で開催しています。

食育



米粉料理教室

行政と共催して、地産地消の取り組みを行っています。



商品製造元と協力

食品添加物の学習を兼ねて、製造元の協力のもと料理教室を行っています。

学習



コープ商品の学習会

環境や資源削減に配慮した、エシカル商品の利用を推進しています。



親子で学ぶ場

化学の不思議に触れる、サイエンスショーを開催しました。

くらし

カルチャー教室

コープおおいたの登録講師による、さまざまなミニ講座を開催しています。



福祉

組合員と学ぶ場

認知症サポーター養成講座などの、講座や講演会を開催しています。



平和

平和の取り組み

展示会や国際署名活動、平和のつどいなどを継続して行っています。



防災

災害支援

組合員と福島県を訪問し、震災について学び・伝える活動を続けています。





環境への取り組み

持続可能な社会を実現するため事業における環境マネジメントはもちろん、組合員一人ひとりの環境に配慮したくらしを応援するさまざまな取り組みを行っています。

大分県地域環境保全基金寄付金



レジ袋の益金を、地域環境保全に役立てるため、大分県に毎年寄付しています。

児童福祉施設に絵本を寄贈



大分県内の私立幼稚園・保育園連合会に加盟している児童福祉施設に絵本を寄贈しています。

自然観察会



大分大学と共同で、絶滅危惧種であるオオイタサンショウウオの観察会を開催しています。



JA全農おおいたと共同で、田んぼの生き物観察会を毎年開催しています。

店舗事業の地球温暖化防止への取り組み

コープおおいたの環境方針

各事業所におけるエネルギー（電力、ガス、車輛燃料など）使用の効率を高めて、供給高1億円当たりのCO₂排出量を定期的に実測把握・検証し、抑制します。

■太陽光発電レポート

地球温暖化を緩やかにする取り組みとして、再生可能エネルギーの発電を行っています。

	2015年	2016年	2017年
コープ南大分	204,426	209,907	210,168
コープ下郡	186,966	191,628	195,426
コープ別府店	51,390	54,565	56,014
コープうすき	51,753	55,658	56,600
発電量合計	494,535	511,758	518,208

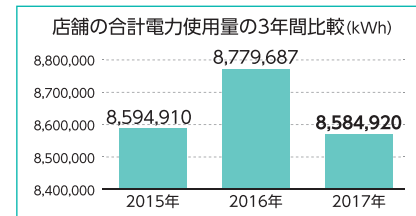
2017年の年間発電量合計……518,208kWh

大分県の住宅1戸あたりの年間電力消費量……5.486kWh

大分県の住宅約**94戸**の年間電力消費量に相当する発電量

■電力使用量削減によるCO₂削減

細やかな省エネに取り組み、2016年と比べると店舗事業全体で194,767kWhの電力使用量削減を実現しました。



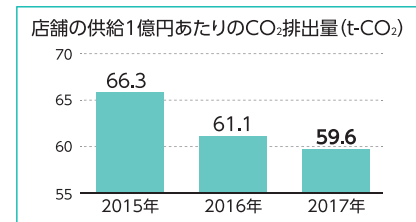
2016年より電力量……194,767kWh削減

2016年よりCO₂量……194.3247t-CO₂削減

2016年対比
杉の木約**13,880本**分のCO₂削減効果

■店舗事業全体のCO₂削減

省エネや太陽光発電などに取り組み、2016年と比べると店舗事業全体で1.5t-CO₂のCO₂排出量削減を実現しました。



2016年より店舗の供給1億円あたりCO₂排出量……1.5t-CO₂削減

1.5t-CO₂×1,000÷14=107.14
→杉の木約**107.14本**分のCO₂削減効果

2016年対比（店舗の全供給高81.5億円）
杉の木約**8,732本**分のCO₂削減効果

CO₂（二酸化炭素）の排出量を具体的にイメージするために、木の中でも特に身近な「杉の木」に換算して表現しています。樹齢50年の杉の木は、1年間で約14kgのCO₂を吸収するとされています。

【出展】農林水産省 林野庁「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」
（参考）http://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/20141113_topics2_2.html

資源回収の取り組み

「一人ひとりの一歩は小さいけれど、みんなの力を合わせれば大きくなる」を合言葉に、2017年度も多くの組合員の皆さまに、コープおおいたのさまざまな環境活動にご協力いただきました。

2017年度回収量の報告

牛乳パックとカタログ

約**88万3,927kg**

回収量の7割がトイレトーパーやティッシュの実質の原料となります。約224万1,843ロールが再生されました。(コアノンロール130m(S)1個276gで換算)



タマゴパック

約**3,398kg**
(約**16万9,900枚**)

1パック約20gとして換算。タマゴパックとして再生されました。リサイクル対象外の素材はペレット化され繊維材料となりました。



プラスチックトレイ

約**2,445kg** (48万9,000枚)



枚数は1枚平均5gとして換算。トレイ1tあたりに原油2,400ℓ(原料+製造するためのエネルギー)が使用されています。



ペットボトルキャップ

約**1,581kg**
(約**63万個**)

回収したペットボトルキャップは、回収業者を通じてプラスチック原料としてリサイクルされます。

集品袋・カタログセット袋

約**4,625kg**
(**154万125枚**)

1枚平均3g(333枚/1kg)として換算。リサイクルポリ袋として再生されています。



廃油

約**4万8,960ℓ**

ドラム缶に換算すると、約245本分に相当。バイオディーゼル燃料として生まれ変わっています。
※コープおおいたでは燃料として使用せず、廃油の回収のみ行っています。



マイバッグ持参数

449万6,827人

マイバッグ持参率87.58%。レジ袋1枚に原油10ml(原料+製造エネルギー用)が使用されています。



topics

コープ九州「鳥栖エコセンター」は、地域貢献の新拠点をめざします!

鳥栖エコセンターは、九州内の4つの生協(コープおおいた、コープさが生協、エフコープ、生協くまもと)が参加し、宅配事業を通して回収された資源物を、一括してリサイクル処理する事業施設です。今まで各生協が個別に対応していたリサイクルを統合し、一括処理を行うことで業務が効率的になり、品質の良い資源を大量に処理して販売することが可能になりました。鳥栖エコセンターでは、リサイクル品の再資源化・障がい者就労支援・環境負荷の低減の3つの社会貢献を実現させています。

障がい者就労支援

センターの庫内作業は、地域雇用の創出と障がい者就労・自立支援に取り組むことを目的に設立された、コープさが生協の子会社、「株

式会社ハートコープさが」が担っています。庫内作業では、巻き込まれ事故を感知するセンサー付きの作業ベストや、作業者の近くに必ずある緊急停止用のロープなど、さまざまな安全への配慮がなされており、ハンディキャップを持った方でも安心して業務ができるように工夫されています。

環境負荷の低減

リサイクル専用の配送車を余分に増やすのではなく、鳥栖エコセンターと同じ敷地内にある冷凍流通センターから、コープおおいたのセンターに冷凍品を届けた後、再び鳥栖市へ戻るトラックの荷台を活用して資源物を運搬しています。元からあった空き輸送スペースを活用するので、CO₂排出の抑制に期待ができます。

環境報告書2017 <http://www.oita.coop/about/csr>

環境への取り組みについてくわしくは、コープおおいたのホームページをご覧ください。



コープおおいたと地域の歩み

組合員のみなさまに支えられ、コープおおいたは創立66年を迎えました。豊かなくらしの実現のため、地域とともに歩みをすすめてまいります。

1952年 → → 1970年 → 1980年 → 1990年 → 2000年 → → → → → 2018年



コープおおいたのプライベートブランド
コープおおいたのオリジナル商品です。原料や製造方法など、組合員の意見を取り入れて作られています。



※パッケージは変更になる場合がございます。